

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月11日

(学) 四恩学園 四恩幼稚園

1. 本園の教育目標

- ・和顔施…優しい笑顔、思いやりの心を持つ子
- ・合掌 …感謝の気持ちを素直に伝えられる子
- ・聞法 …話を聞き学び合う子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

質の高い教育の実践を目指す

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育の質向上のために、研修制度を充実させる	B	外部研修を受講しやすい環境作りに成功し、多くの研修に参加することができた。(マーチング研修、ピアノ研修、特別支援教育研修、ICT教育研修、応急救護研修、木育研修、マネジメント研修) オンライン受講の際のネット環境整備が必要。 しかし非常勤職員の研修はオンライン受講のためフィードバックが必要。
2	特別支援教育のための園内支援体制を整備する	B	発達保育講師を配置し、家庭や関係機関との連携を図り、個別の指導計画を作成した。特別な支援を要さない家庭でも、子育ての不安など、気軽に面談が行えるような体制を整えることができた。また、専門機関との連携を密に行い、園内で情報共有を行った。 パンフレットの作成を行い、HPに掲載、保護者配布をした。
3	職員の業務効率化、働き方改革に対応した体制の整備	A	業務効率化として、携帯電話アプリを使用した内線機能を構築し、密な連携を測れるように整えた。 保育室の剥離作業を行った。 おもちゃの消毒用に除菌ボックスを複数個購入した。 休憩室を空き部屋に設けた。 園児が安心して遊べるように、遊具点検を毎月行い、大型遊具は専門業者に整備をしてもらった。
4	正課指導の充実・発展	A	毎週火曜日にリトミック指導を行い、子どもたちの音感を養った。また、ピアノ指導も積極的に行った。 年長児には「えんぴつ指導」「マーチング指導」を月に2回行った。小学校就学前に正しいえんぴつの持ち

			<p>方、ひらがなの書き方を学び、マーチングでは地域のお祭りで発表するほど上達した。</p> <p>毎週木曜日には体育指導を行った。運動機能の向上、身体の使い方を学ぶことができた。</p>
--	--	--	--

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、園児一人一人に寄り添った質の高い教育を展開することができた。また、さらなる質の向上に向けた課題も明確となり、来年度取り組む内容の把握することができた。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境	<p>園庭や室内の環境、教育・保育活動において、今年度の課題や改善点を話し合い、より良い環境の構成に取り組む。また、子どもの興味関心に合わせて園庭や教室の環境を構成していき、子どもたちが自発的に活動できるような空間を整える。子どもたちが伸び伸び生活をするためには、働く職員一人一人が心に余裕を持ち、働く意欲を持つことであり、随時働き方改革を行っていく。そして、多様性の時代から、子の成長を重視し、一人一人の個性を大切にするため、子どもの発達に合わせた遊具の購入や教具の設置に取り組んでいく。</p>
2	安全管理 安全対策	<p>災害等の緊急時に備えて、園の危機管理マニュアル等を職員間で共通認識し、意識の向上やマニュアルの改善に努め、避難訓練を様々な災害をイメージして行うようにする。</p> <p>園舎内や園舎外すべての清掃や整頓をし、危険なところがないか、老朽化が進んでいる所がないか等を、確認をする。</p> <p>保護者へは、不審者発生に備えるため、インターホンやネームプレート着用ルールの徹底を行う。そして安全対策として駐車場事故防止のための注意喚起を継続して行う。また、見守りカメラ、不審者対応のための電子カードの導入を安全対策の観点から行っていく。</p>
3	教育行事	<p>行事に追われないように、行事の見直しかつ、行事の充実を目指す。次年度は今年度の反省を踏まえた内容にし、個人差が出る教育内容については配慮や工夫をしていくようにする。</p> <p>青梅ならではの自然に触れ合う機会や、地域の方々との交流する機会を設ける。また、行事内容をお便り等で分かりやすく記載し、保護者と協力して子どもの理解へつなげる。</p>

6. 学校関係者評価結果

- ・施設整備に対する安心感や、職員数の増加による安心感の声が多かった
- ・教育方針、保育内容を動画や参観を通して感じ、評価の声が多い
- ・給食の試食会の開催希望
- ・先生方の数も増え安心した運営状況となっている。共働き世代の増加による預かり保育や延長保育事業の更なる発展と成長に期待する
- ・新たに取り組んでいる自園調理の評判をよく聞き、食育として新たな特色を築いていると感じる
- ・昔からある保育内容や行事を、行い方を現代に変えつつも残し、地域で見られることは喜ばしい
- ・子どもたちの声が聞こえ、広大な敷地での伸び伸びとした保育は幸せだと思う